

# 光と緑の風通信

発行/2009年10月25日 編集/福島県立医科大学看護学部 〒960-1295 福島市光が丘1番地 TEL024-547-1111 (代)

## 2009 OPEN CAMPUS



7月4日(土)に看護学部棟、講堂にて、オープンキャンパスが開催されました。県内の高校46校のほか、看護専門学校やお隣の福島大学から、県外では東北近県のみならず群馬や埼玉の高校からもみえて、参加者は400名を超え、会場は超満員となりました。

### セッション①

- 学部、カリキュラムについて
- 在校生による学生生活についてのミニセッション
- 平成22年度入試の概要説明

### セッション②

- 模擬講義①  
「老人看護」  
小平寛子(生態看護学部門 准教授)
- 模擬講義②  
「小児看護」  
田中克枝(生態看護学部門 講師)

### セッション③

- 施設見学、体験コーナー
- 学生、教職員による質問相談コーナー



### ミニセッションを担当して

家族看護学部門 川鍋 紗織

7月4日、オープンキャンパスが開催されました。多くの高校生やご父兄のご来場があり、講堂はうめつくされました。そのなかで行われましたミニセッションでは、看護学部4年生3名と大学院1名の学生さんが、本学で何を感じ・考え・学んできているのか、どのような看護職になりたいのかなどを語っていただきました。そして、「受験勉強だけではなく、お友達やご両親、先生と話す時間を大切にしてください」という学生さんから高校生へのメッセージは、看護を学ぶ本学の学生さんらしいものであり、4年生の頼もしさを感じたひとときでした。ご協力いただきましたみなさまに感謝いたします。

(かわなべ さおり)



### 模擬講義を終えて

生態看護学部門 小平 廣子

7月4日(土)に看護学部の第12回オープンキャンパスが開催されました。例年を上回る約400名の参加となり、看護に対する関心の高さを改めて感じました。セッション1の看護学部紹介に引き続き、セッション2では、「子どもの栄養～乳幼児と思春期における食行動の支援」と「認知症高齢者の体験世界と看護」と題した2つの模擬講義を行いました。参加者からは「大変興味深い内容で大学の講義を体験できてよかった」、「雰囲気良く是非入学したいと思った」等の意見が多数寄せられました。また、「講義の時間を長くしてほしい」、「教室内が狭くメモがとれなかった」、会場には椅子に座れず30分間立ったままの方も大勢おられ、「広い教室で実施してほしい」等の要望もあり、次年度に向けての課題をいただきました。ご参加いただいた高校生、教職員、ご家族の皆様ありがとうございました。入学を心からお待ちしています。

(おだいら ひろこ)



### 看護にふれよう、体験コーナー

生態看護学部門 飯塚 麻紀

看護学部の普段の講義・演習内容を高校生に知ってもらう目的で、実習室に看護の体験コーナーが設けられました。今年は、基礎看護学部門では『血圧測定』や『採血・点滴法の見学』、生態看護学部門では『老人体験』、『救急蘇生法の実際』、またモデル人形を使った『赤ちゃん抱っこ体験』に加え、新しくスキルラボに設置された『シュミレーターモデル人形の見学』、家族看護学部門では『妊婦体験』やモデル人形を使った『赤ちゃんの沐浴体験』、ケアシステム開発部門では『在宅療養支援のための住宅設備の展示と体験』が行われました。いずれの体験コーナーも、教員だけでなく有志の学生達の協力があり、和やかな雰囲気の中、参加した高校生も眼を輝かせ、進んで体験してくれていました。今回の体験が、さらなる看護の興味につながってくれたらと感じました。

(いいつか まき)

# 卒業生の近況報告

## 近況報告

猪苗代町役場保健福祉課

磯川 さゆり



私は今、耶麻郡猪苗代町役場の保健福祉課で、保健師として働いています。保健福祉課の中でも、健康づくり業務という業務に配属され、主に住民の方々のがん検診や特定健診・特定保健指導、乳幼児健診、予防教室・事後指導教室（高血圧、高コレステロール、高血糖、骨粗鬆症など）等を行っています。

私は、ここ猪苗代町で生まれ育ちました。そして、生まれ育ったこの猪苗代町が大好きです。そんな大好き

な猪苗代町で、猪苗代町のために働けることに喜びを感じながら、毎日さまざまな事業に参加し、さまざまな人と出会い、日々多くのことを学ばせていただいています。

知識不足や経験不足から、戸惑うことや落ち込むことも多々ありますが、良い先輩や上司にも恵まれ、楽しく仕事をしています。住民の方々に、町の保健師として名前を覚えてもらったり、「ありがとう」と言ってもらえると、本当にうれしくなります。

これからも、人との出会いを大切に、日々保健師として、公務員として、そして人間としても成長していきたいといいなと思います。（いそかわ さゆり）

## 看護師として働き始めて

東北公済病院 志田 瑞穂



看護師として働き始め、早いもので五ヶ月が過ぎようとしています。現在は、整形外科・小児科が含まれた混合病棟で働いています。

入職時は、何が分からないかも分からないという漠然とした不安でいっぱいでした。しかし、毎日プリセプターの先輩とケアや技術の振り返りを行なうことで、自分の課題を明確にし、見守りから一人で実施できるものが増え、業

務に慣れることで不安も少しずつ小さくなったかと思っています。

五月末には夜勤が始まり、一度に受け持つ患者さんの人数も多く、日々責任の重さを感じています。自分のアセスメント能力の無さや要領の悪さに落ち込むことも少なくありません。そんな時、一生懸命リハビリをしている患者さんや、元気になって退院していく小児患者さんの姿にいつも励まされています。

今は目の前のことをこなすことに必死な毎日ですが、患者さんにより良いケアを提供できる一人前の看護師に一日も早くになれるよう、日々努力していきたいと思っています。（しだ みずほ）

## 近況報告

福島県立医科大学付属病院

六戸 愛美



私は現在、福島県立医科大学附属病院の婦人科、乳腺外科病棟で働いています。2年目となり、基礎的な技術や知識もだんだんに身につけてきましたが、まだまだ技術、知識の不足を感じています。

病棟には、がん患者さんが多くいらっしゃいます。学生時代に学んだように、がん患者さんは、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな全人的苦痛をもっています。精神的苦痛、スピリチュアルな苦痛に対するケアは難しく、患者さんのつら

い、悲しいという訴え、死への不安などに對して、どのように声をかけてあげればよいのか、どう援助すればよいのかまだ戸惑うことが多いです。先輩方のような接し方、声のかけ方など、もっとと学んでいかなければならないと感じています。

自分が1年目のとき、2年目の先輩方の姿をみて、「すごいな」「自分もこんな看護をできればな」と感じていました。今、自分が2年目となり、そんな先輩方のようになれているか、不安があります。今の自分を振り返り、できていること、できていないことを認識し、先輩方のように立派な看護を提供していきたいと思う、これからも頑張っていきたいと思えます。（ししど まなみ）

## 4年目を迎えて

総合南東北病院

藤宮 恵



私は大学を卒業し、看護師として働いて4年目を迎えました。現在も、脳神経外科病棟で働いています。

最初の一年目は業務に慣れるのに精一杯で、二年目には重症患者を任せられるようになりました。三年目になるとプリセプターを行い、今年に入ってからはいりだー業務に加え、5月と6月には看護学生の実習指導をやらせていただきました

た。そして、今は看護研究に取り組んでいるところです。

経験を重ねることに、役割と責任も大きくなってきています。私は、これまでにたくさんの方の失敗をしました。でも、一人じゃないから乗り越えることができ、今があります。これまでもそうでしたが、これからもまだまだつらく苦しいことがあるかと思っています。でも、一人じゃないから乗り越えられると信じています。

そして、今日もまた、周りの人に支えられていることを感じながら、一歩一歩ゆつくり歩んでいこうと思います。（ふじみや めぐみ）

## 基礎実習を終えて

看護学部2年 菅原 宏大



とを学んだのか、と大きな達成感がありました。

私は、実習というのは、私たち学生が学校で学んで来た

私はこれまで、病棟という場所にはほとんど行かなかったたので、今回の実習で、病棟内での患者さんの生活や、医師や看護師やその他の病棟で働く人の役割を間近で見ることができ、いつも新鮮な気持ちで学ぶことができました。その中でも特に、日々変化する患者さんの状態を観察しながら、その状態に合わせたケアを考えていくことに看護の難しさを痛感しました。

今回の2週間という実習の期間は、私が大学に入ってから一番ものを考え、頭を悩ませた期間でもありました。毎日の記録は大変でしたが、2週間の実習が終わって記録を見直したとき、こんなにたくさん

たことを実際に活かすことができる貴重な機会であり、学校では学べないことをたくさん学ぶことのできる機会でもあるということを知りました。今回の実習で経験させていただいたことは、これからの勉強や、3年生になってからの実習に活かしていきたいと思えます。

また、実習で担当させていただいた患者さんや、実習を受け入れてくださった病棟スタッフの方々、指導をしてくださった先生、共に学びを深め合ったグループの友人たちへの感謝の気持ちも忘れないようにしていきたいと思えます。

(すがわら こうだい)

## 障がい者看護学実習を終えて

看護学部4年 釜谷 里美



き、本当に貴重な経験をさせていただいたと感謝しています。

最近手にした本で、淀川キリスト教病院名誉ホスピス長の柏

今回の実習で、私は、脊髄にがんが転移したことで両下肢麻痺になった患者さんを受け持ちました。この患者さんは、これまで自律的に真面目に生きてこられた方で、下肢が自分の思うようにならずトイレも一人でいけない辛さや、退院後に自宅へ帰ることへの不安など、私に自分の思いを語ってくれました。この実習は、1週間という短い実習期間でしたが、ベッドサイドで患者さんの思いをゆつくり聴くことがで

木哲夫氏が書かれたものに、『そばに座るといことは「わたしは一定の時間あなたのそばに居るつもりです」という意思を伝える行為なのである』という言葉がありました。看護師となつて多忙な業務の中にあつても、この実習での経験やこの言葉を思い出し、いつでも患者さんのそばに座つてゆつくりと話の聴ける看護師になりたいと思つています。

(かまや さとみ)

# 実習を通して学んだこと。

## 家族看護学実習を終えて

看護学部4年 大和田 翠



「強み」(病気に対する柔軟な受け止め、家族が互いに意見を言える関係性など)が在宅での生活に適応していく糧となり、危機

訪問看護ステーションでの実習を通して様々な家族と出会った。多くの療養者はベッド上での生活が中心で介助がないと動くことが難しく、家族は休みなく続く精神的疲労などの問題が生じやすいことが分かった。しかし、各家族に各々の介護の姿勢があり、根を詰めず介護に取り組む家族も多かった。

家族の一員が病に倒れることで、家族の役割や生活に大きな影響や変化を及ぼすこれらの危機に直面した時、家族の持つ

を乗り越えることで家族の絆が深まるきっかけにもなることを、在宅介護7年目の家族と話すことで学ぶことができた。

今回訪問したお宅は療養者と家族の関係性が良好であったが、様々な問題を抱えながら生活している家族も多くいると思う。今後、様々な家族に出会うなかで、家族の歩んできた歴史や療養者だけでなく家族それぞれの状況や考えにも目を向け、家族の強みを活かし療養者を含めた家族全体を支援できる看護師になりたい。

(おおわだ みどり)

## 地域看護学実習で学んだこと

看護学部4年 野内 菜美子



域性」を捉えていくことが本当に大切なことだと感じました。また、成人・高齢者・母子・精神などの各事業に参加させていただき

私は今回、会津美里町というところで実習をさせていただきました。この町は住民の方々と保健師との距離がとても近く、住民の方が相談しやすい温かい環境が整っているという印象を受けました。

ながら、住民の健康に対する関わり方だけでなく、住民のニーズを把握し、そのニーズに沿えるように各関係機関との連絡調整を図ることが保健師の大切な役割であることを学ぶことができました。

歴史や文化などが今の住民の生活に反映されていて、考え方や価値観にも影響を与えているという事です。保健師は保健活動を行う上でその地域の「地

3週間という短い時間でしたが、本当に多くのことを感じ、学ぶことができた実習でした。実習中にお世話になった保健師や住民の方々、協力してくださったすべての方に感謝しています。本当にありがとうございました。

(のうち なみこ)





## 初めての光翔祭

看護学部3年 芳賀 卓哉

今年の学祭は一般に公開される3年に一度の光翔祭です。私は3年生なので光翔祭を経験したことはありません。光翔祭は普段のものとは違ってどれだけの人が集まるのか楽しみにしています。先輩方からの話で、光翔祭について、アーティストを学校に呼びライブを行ったり、部活ごとの出店の他にいろいろな部門を編成し教室に展示したり、とても楽しめる学祭というのを聞いています。

私は看護学部の会長をしています。光翔祭に向けて3年間積み立ててきた貯金は巨額で、光翔祭の規模の大きさがわかります。また実行委員は春前から準備を始めていて、光翔祭を絶対に成功させたいという気持ちが伝わってきました。私もできる限り協力して成功させたいと思います。そして来てくれた一般の方に楽しんでもらい、私自身も楽しみたいと思っています。(はが たくや)

## スキルラボ※開設

—質の高い看護実践力獲得のために—

※スキルス&ITラボラトリーの略



基礎看護学部門 横田 素美

本学では、平成21年4月27日に「スキルラボ・ベーシック」(看護学部 旧実習室C)、「スキルラボ・アドバンス」(総合科学系研究棟5階 旧心理学実習室)、「スキルラボ・手術室」の3つのスキルラボを開設しました。

医療の現場では、日々さまざまな患者の方へ最善の看護や治療を提供することが求められます。そうした期待に応えるためには、個々の医療者が自らの実践力を研鑽することが必要です。是非、スキルラボに整備しているシミュレーション人形やモデル装置を用

して、高い臨床能力や正確な技術の獲得を目指して下さい。臨床現場で緊急を要するような状況に遭遇した時も、何度もトレーニングを積んでいることが自信となり、冷静で的確な対処に繋がります。自分の実践力は、自分で高めていくことしか術はありません。コツコツとトレーニングすることが、質の高い看護実践力として必ず実を結びます。スキルラボでお会いできることを楽しみにしています！(よこた もとみ)

## 退職される先生からの言葉

いつか、どこかで！

生態看護学部門 田中 克枝

学生の皆さん、教職員の皆様、実習等でお世話になりました施設の皆様、本当にありがとうございました。福島での生活も、あつという間に5年4ヶ月過ぎました。講義、実習などを通して、たくさんの方々に出会いました。有意義な5年間でした。

今回、自分自身の勉学のため退職し、ちよつとの期間、東京で学生生活をする予定です。いつか、どこかで私を見かけましたら、声をかけてください。では、皆様、お元氣で！(たなか かつえ)

学生としてがんばります！

生態看護学部門 平田 弘美

2006年4月から、老人看護学の講師として勤務させていただきました。予てから希望していたアメリカのオレゴン州ポートランドにあるOregon Health Science Universityという大学の博士課程に入学が決まり、9月の中旬に渡米します。

この3年5ヶ月は長いようでも短く、楽しく仕事をさせていただきました。年度途中で退職するのはとても残念ですが、また皆さんとどこかでお会いできることを楽しみに、海の方こうで私も学生として第一歩を踏み出したいと思っています。(ひらた ひろみ)

看護学部カレンダー

10月28日(水)	解剖慰霊祭
10月31日(土)	光翔祭
11月 1日(日)	
11月28日(土)	特別選抜入学試験
12月21日(月)	冬期休業
1月 8日(金)	
1月 7日(木)	「医療経済学」集中講義
1月 8日(金)	
1月16日(土)	大学入試センター試験
1月17日(日)	
2月25日(木)	一般選抜試験(前期)
2月26日(金)	
3月12日(金)	一般選抜試験(後期)

小児看護  
専門看護師の  
活動報告

応用看護学部  
古橋 知子

本学に着任し、専門看護師としての役割をとり始めて3年半が経過した。病院組織とそこで提供される医療や看護を知ることから始め、スタッフとは一回一回の関わりを通じて専門看護師とその役割について少しずつ理解を重ね、確認し合ってきた。組織を横断して役割を果たす活動のあり方は未だ模索中である。

これまで多くの機会を得た「教育」「研究」の中で、「We can change」を感じることができた。院内では、看護部職員も倫理審査申請が可能になり、看護実践が実践センターが看護部に設置され、より多くの看護学部教員が研究支援に携わる仕組みができるに至った。また、県内では、子どもに携わる看護師や保育士達が、処置における馬乗り抑制の廃止や家族同席の奨励など、病院においても子どもの権利を護り、子どものもつ力を引き出すかわりを見事に推進している。

今後は、子どもおよび家族に直接的あるいは間接的にかかわる「実践」「コンサルテーション」「調整」「倫理調整」に比重を移して、特に子どもを看ること、看護を継続させることをスタッフと共に深めていきたいと考えている。

(ふるはし ともこ)

海外研修報告

フィンランドの  
Laurea応用科学大学を  
訪れて

ケアシステム開発部門 大川 貴子



今年3月に文部科学省の「看護学教育に関する海外実態調査」に随行し、フランスとフィンランドの看護教育機関や実習病院などを訪問させて頂きました。

(おおかわ たかこ)

その中で一番印象に残っているのは、フィンランドのLaurea応用科学大学の教育内容です。「ケアリングTVのスタジオにご案内しますね」と言われ部屋に入ると、大きなテレビ画面に3名のご老人が映し出されており、その前で若い女性が話しかけながら運動をしていました。これは、テレビ会議システムを用いて大学と各家庭を結び、健康教育プログラムを提供するものでした。運動を



している女性は学生で、対象者のニーズを把握しながら、15分間の番組を作り自ら出演していました。この大学では、倫理・国際化・改革・内省・ネットワークという5つの能力育成を目指しており、企業との連携を図り新たなケア提供システムの開発することを体験学習するために、上記のような活動が行われていました。学生時代からこのようなダイナミックな活動に主体的に参加できるのって良いなど、大いに刺激を受けて帰国しました。

日本看護系  
大学協議会の開催

生態看護学部 荒川 唱子

本協議会の目的は、看護系大学相互の連携及び協力によって学術と教育の発展に寄与し、看護学高等教育機関の使命達成に貢献することである。平成21年度から2年間は、中山洋子

が印象的であった。最後には文部科学省と厚生労働省からの講師による「看護学教育の動向と課題」と称した講演で幕を閉じた。これから1年間それぞれの看護系大学が活動をして来年の総会に繋げるということであり、今後に進むべき方向性を示していくという点で本協議会の果たす役割は大きい。

(あらかわ しょうこ)

編集  
後記

この35号が皆様に届く頃には秋真っ盛りのことでしょう。秋といえは私にとってはキンモクセイ。キンモクセイの香りは、夏を終えた寂しさや秋の癒し、冬の予感など、季節の移ろいを感じさせてくれる存在に思えます。

ある方はキンモクセイの香りを感じた時、その日を毎年手帳に書き留めているそうです。

その日あったことを書き留める日記。その中に空の青さや風のおい、花々や木々の変化、そういった季節の移ろいや自然を想う一行がある。密かな楽しみ、素敵な記録。きっとその方は、そのページをめくる度、キンモクセイの香りを記憶とともに楽しんでいることでしょう。心に留め、一行に込める出会いや感性、そしてまた、「光と緑の風通信」を通しての出会いを大切にしていきたいと感じ

ます。

最後に、お忙しい中寄稿して頂いた沢山の方々に深く感謝いたします。(さかいまちこ)

【編集委員】  
林 正幸 本多たかし 横田素美  
飯塚麻紀 野田智子 濱尾早苗  
庄司真奈美 酒井真知子